

第177回 上級 工業簿記①

問1

製品単位当たり標準変動製造費	③	7,200 円
半製品単位当たり標準変動製造費	③	3,000 円

問2

月末仕掛品標準原価	③	1,176,000 円	月末製品標準原価	③	1,296,000 円
標準売上原価	③	6,720,000 円			

問3

直接材料費	価格差異	③	53,000 円	(借方差異)
	数量差異	③	15,000 円	(貸方差異)
第1工程 直接労務費	賃率差異	③	37,000 円	(貸方差異)
	時間差異	③	35,000 円	(借方差異)
第1工程 変動製造間接費	予算差異	③	18,500 円	(借方差異)
	能率差異	③	17,500 円	(借方差異)

問4

第2工程仕掛品—直接労務費				(単位：円)
前 月 繰 越	(③ 720,000)	(製 品)	(③ 2,250,000)	
賃 金	(③ 1,748,000)	(賃 率 差 異)	(③ 23,000)	
()	()	(時 間 差 異)	(③ 15,000)	
()	()	(次 月 繰 越)	(③ 180,000)	

問5 利益計算において控除する金額の前にはすべて△をつけなさい。

月次損益計算書		(単位：円)
売上高	(③ 12,100,000)	
標準売上原価	(③ △ 6,720,000)	
標準変動製造マージン	(5,380,000)	
標準変動販売費	(③ △ 525,000)	
標準 (貢献利益)	(4,855,000)	
変動費差異	(③ △ 53,000)	
実際 (貢献利益)	(4,802,000)	
固定製造間接費予算	(△ 1,900,000)	
予算差異	(5,000)	
固定販売費・一般管理費予算	(△ 800,000)	
予算差異	(△ 21,000)	
営業利益	(③ 2,086,000)	

○数字は予想配点

第177回 上級 工業簿記②

問6

損益分岐点売上高	⑤ 6,918,026 円
----------	---------------

問7

	第1工程	第2工程
予算差異	③ 12,000 円 (借方差異)	③ 17,000 円 (貸方差異)
能率差異	③ 22,500 円 (借方差異)	③ 8,000 円 (借方差異)
操業度差異	③ 67,500 円 (借方差異)	③ 80,000 円 (借方差異)

問8 調整計算において控除する金額の前に△をつけなさい。

(単位：円)

直接標準原価計算による 実際営業利益	3,200,000
期末分固定製造間接費	(③ 807,000)
期首分固定製造間接費	(③ △ 1,562,000)
全部標準原価計算による 実際営業利益	(2,445,000)

問9

発生した標準原価差異（材料受入価格差異を除く）が異常な状態に基づくものではなく、また、予定価格等が不適当であったため、差異が比較的多額である場合 ⑤

○数字は予想配点

第177回 上級 原価計算①

問題1

問1

- (1) ⑥ 11,200,000 円
- (2) ⑥ 13,600,000 円
- (3) ⑥ △ 3,720,000 円
- (4) ⑥ 7,768,000 円

問2

- (1) ⑥ 15,700,000 円
- (2) ⑥ 20,240,000 円
- (3) ⑥ 120,000 円
- (4) ⑥ 13,172,000 円

問3

旧機械を売却し、新機械を購入する ④ 案を採用すべき

(a) 旧機械を使用し続けた場合の正味現在価値

④ 31,300,470 円

(b) 旧機械を売却し、新機械を購入した場合の正味現在価値

④ 35,997,966 円

○数字は予想配点

第177回 上級 原価計算②

問題2

問1 年

問2 収益性指数が なので、
設備投資を [行うべき ,] (どちらかを丸で囲む) 両方正解で⑩

問3 %

ので、
設備投資を [行うべき ,] (どちらかを丸で囲む) 両方正解で⑤

問4 [常に正しい ,] (どちらかを丸で囲む)
常に正しいとは言えないを選択した場合、正しくなくなる可能性が生じる事例 両方正解で⑤
分割して投資が行われ、内部利益率が2つ以上存在するケース

問5

各調達源泉の調達額の割合を重み付けに利用して、他人資本の資本コストと株主資本の資本コストの平均を計算する。 ⑤

○数字は予想配点